

国際経済学会春季全国大会 欧州部会第3報告（福岡大学にて2013年6月8日（土）午後）

「技術革新志向国際提携戦略論：工作機械製造における日独連携事例」 名古屋工業大学 竹野忠弘

本研究の目的は、工作機械の設計・製造・補修事業における日系M社と独系G社との国際提携事例の検討を通じて、製造技術革新志向を目的とした国際提携戦略について提起することにある。M社の場合は、「売上原価率」が売上不振時に10年毎に高い水準になる工作機械業界の製造販売開発構造のもつ構造的な課題への取り組みに一連の経営戦略の起点があった。そして技術革新の契機は、機能構成部品の加工製造への上流工程への遡及とその結果としての機能部品設計技術の蓄積にあった。それが機能ユニット部品の開発という革新に結実し、戦略的提携を可能にした。国際提携戦略研究の今後の課題は、急激な通貨レートの変動が事業「提携」関係の「売上原価率」構造にどのような影響を与えるのかという点である。